

未成小保護者説明会について(報告)

日時	令和8年(2026年)3月19日(水)17:00~18:00
場所	未成小学校3階 第2多目的室
出席者	会場参加者:7人、オンライン視聴者:14人 未成小校長、教育委員会:4人
資料	光明・未成地域における学校規模の適正化について
主な内容 質疑・意見・応答 (概要)	<p>～光明小と未成小を、令和10年度以降を目途に統合する可能性について説明～</p> <p>①大まかにはメリットの方が大きいかとは思いますが、今後の協議で想定される懸念や反対意見と、その対策は何か。</p> <p>→主に子どもと保護者の不安が想定される。対策として、学校間交流の実施や心理士の配置、個別の事情に応じた柔軟な対応、施設改修などを行い、心情に配慮する。</p> <p>②統合時期は早めに知らせてほしい。</p> <p>→時期は決まり次第早期に示していく。</p> <p>③育成会(学童保育)についてはどうか。</p> <p>→統合を機に教室を整備して受け入れ枠を増やすなど利便性を上げたい。</p> <p>④光明小跡地の活用はどうか。</p> <p>→1つの考え方として、良元小の建て替え時の仮校舎としての利用があるほか、公共施設として地域に有益な利活用を検討する。</p> <p>⑤夏休みに光明小で行っている臨時育成会はどうなるのか。</p> <p>→今後も地域のニーズに合わせて継続・拡充していく予定である。</p> <p>⑥未就学児の家庭への説明はあるのか。</p> <p>→未就学児家庭向けにも説明会を実施し、オンラインも活用していく。</p> <p>⑦小中一貫校(義務教育学校)の設置についてはどう考えているか。</p> <p>→将来的には小中一貫教育を推進する方向で検討していく。</p> <p>⑧統合により校区が広がることで愛護部(見守り活動)の負担が、増えるのが心配だ。</p> <p>→保護者の負担軽減は大きな課題。この学校だけでなく全市的、あるいは国・県レベルで検討すべき事項として検討・要望していきたい。</p>
協議録(詳細)	
事務局	<p>本日は、貴重なお時間をいただき、感謝する。</p> <p>光明・未成地域における学校規模の適正化と、今後の教育環境のあり方について、教育委員会として現在検討を進めている内容をご説明させていただく。その後保護者の皆様のご意見を伺い、今後の検討の参考にさせていただきたい。</p> <p>現在、日本全体で少子高齢化・人口減少が進んでおり、今後も進展が見込まれている。将来的には、若い世代と高齢者の人口割合がほぼ1対1になると推計されており、このような人口構造の変化の中では、税収の減少が見込まれる一方、高齢者を支える社会保障費などの増加が予想される。そのため、学校施設を含めた公共施設について、これまでと同じように維持していくことが難しくなり、全国の自治体の共通の課題となっている。</p> <p>本市でも先月の広報たからづか2月号の巻頭特集で『公共施設の未来はどうなる…!?!』という題名で分かりやすく漫画で紹介しているのでご覧いただけたらと思う。</p>

次に、本市の状況について。

#### 資料の「1 市立小・中学校における児童生徒数及び学校数の推移」

昭和33年から令和7年までの市立小中学校における児童生徒数及び学校数の推移を掲載している。青の折れ線グラフが小学校の児童数、赤が中学校の生徒数。そして、棒グラフが学校数で、青が小学校、赤が中学校数になる。

本市では、昭和40年代の人口急増期に、急増する子どもたちを受け入れるため、多くの小中学校を整備してきた。小学校は昭和57年度に19,880人、中学校は昭和62年度に9,195人で最大となった。令和7年度時点では、小学校は11,222人、中学校は5,209人で、ピーク時と比べると、半分程度まで減ってきている。学校数は、令和3年度末に中山五月台小と中山桜台小を統合したことで1校減り、現在23校となっている。つまり、「子どもの数は半減しているが、学校数は当時とほぼ同じ」という状況になっている。

さらに人口構成も大きく変化している。隣の表は、本市の「年齢区分別人口構成比の推移」になる。棒グラフの下から「0～14歳」「15歳～64歳」「65歳～74歳」と続き、平成7年では「15歳～64歳」の生産年齢人口が半分以上を占めていたが、少子高齢化の進展に伴い、その層の割合が小さくなる一方、65歳以上の割合が大きくなっている。

生産年齢人口が減ると国や自治体の税収が減ってくる。将来世代に負担を残さないために、限られた税収の中で、高齢者を支えながら、学校施設も含めた公共施設をどう維持していくかを考えていく必要がある。学校施設については、昭和40年代から50年代に建設されたものがほとんどで、今後、老朽化対策や建替えを検討していかなければならない。

このような状況から、本市では、児童生徒数に応じた学校数にしていくため、学校の適正規模・適正配置の検討が必要な状況となっている。

次に、学校規模に関する国の考え方について。

文部科学省では、平成27年に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」を示しており、この手引きの中で、学校教育においては、子どもたちが多様な考え方に触れ、認め合い、切磋琢磨するといった教育環境を確保するためには、一定の集団規模を確保することが望ましいとされている。また、小学校では、クラス替えが可能となる1学年2学級以上の規模が望ましいとされている。

このような状況の中で、光明・末成地域における学校規模の状況についてご説明する。

(1枚目裏面)末成小は、昭和46年に開校し、多い時で2千人近くの児童がいたが、光明小学校が昭和54年に末成小から分離開校した影響で児童数も落ち着き、その後は少子化の影響で減少してきた。最近では東洋町に戸建てやマンションが建った影響で、児童数が少し増えている状況である。

一方、光明小学校は、開校当初は700人以上の児童が在籍していたが、その後減少し、平成30年度以降はすべての学年で単学級の状況が続いている。児童数の推移を見ても、今後大きく増加する見込みは現時点では想定しにくい状況である。

小規模校には、きめ細かな指導ができるといった良さもあるが、一方で、「4 小規模校における学校教育の課題」にも記載していると通りの課題がある。こういった教育上の課題については、文部科学省の手引きでも指摘されている。

教育委員会としては、子どもたちが多様な友だちと関わりながら学び合える環境を確保することが重要であると考えており、そのため、光明小学校の教育環境を将来にわたって確保していくためには、近隣校との学校規模の適正化を検討する必要があると考えている。

光明小学校の教育環境を考えた場合、方法としては、例えば、未成小学校区の一部を光明小学校区に編入することで光明小学校の児童数を増やすといった考え方もある。しかしながら、本市全体でも少子化が進んでおり、将来的には未成小学校の児童数も減少していくことが予想される。そのような中で校区を分けて児童数を調整していく方法は、長期的に見て安定した学校規模を確保するという点では必ずしも有効な方法とは言えない。また、学校施設の規模という観点から見ても、未成小学校は光明小学校より校地や校舎の規模が大きい。

こうした将来的な児童数の見通し、学校施設の規模、通学距離や生活圏、未成小学校から光明小学校が分離開校した経緯などを総合的に考えると、光明小学校と未成小学校を一体的に検討し、教育環境を整えていくことが現実的な方向ではないかと考えている。

そして、学校は子どもたちの学びの場だけではなく、地域にとっても重要な拠点である。地域の皆様が学校に集まり、子どもの見守りや学校を支える拠点としての役割を持たせる学校施設と公共施設の複合化なども含めて、今後の学校のあり方を検討していきたい。

最後に、今後の進め方について「5 令和8年度の取組(案)」を考えている。

①にあるとおり、保護者の皆様、地域の皆様、関係団体の皆様に説明をしていき、意見をお伺いしながら学校のあり方について検討を進めていき、その後、②まちづくり協議会やPTA等の団体ごとに両校合同での検討の場の設置や、③両校合同でどのような学校づくりを進めていくかの検討の場の設置を設けていきたいと考えている。

学校統合を進める場合には、子どもたちの気持ちへの配慮が何より重要であると考えている。そのため、中山台地区の学校統合の経験を踏まえて、環境が変わることに不安を抱える子どもたちの心のケアに対応するためのスクールカウンセラーの配置や統合前からの光明小学校・未成小学校の児童同士の交流授業、子ども同士が安心して関係を築ける機会づくりなどについて、しっかりと取り組んでいきたい。

統合の目安としては、そういった議論・取組が早く進んでも令和10年4月、余裕を見て、令和11年4月ごろと考えている。

本日お伝えした内容は、あくまで教育委員会としての現時点での考え方で、まず、現在の状況と検討の方向性についてご説明させていただいた。今後も保護者の皆様のご意見を伺いながら、子どもたちにとってより良い教育環境となるよう検討を進めていく。

これより質疑応答の時間とさせていただきます。ご質問のある方は挙手をお願いします。

事務局

結論から言うと、未成小がどうこうというわけではないが、やはり市内で小さくなる学校が出てくる。各学年が1クラスずつの状態は、教育的な意義から言ってもなかなか難しい。もう一つ、説明にあったように、人口減少時代に入ってしばらく経つ。日本では、国勢調査が始まった1920年(大正9年)から、戦時中を除き、人口がずっと増えてきた。平成22年の国勢調査で初めて減少に転じ、そこからずっと減少してきている。

	<p>子どもが生まれてこない状況で高齢者の割合が非常に増えていて、生産年齢人口（14歳から64歳までの仕事をして、国・自治体を支える人口）割合が、非常に減ってきている。そうすると、その支えることができる規模感に抑えていくしかないというのが自治体の実状である。</p> <p>入ってくる税金が減ってくるので、右肩上がりに人口が増えていたときの学校の規模数を維持していくのが非常に難しくなっている。学校数が多く、順番に1年に2校ずつ整備していても、小学校だけでも10数年かかってしまう。そうしたところで、学校数を減らしていくことで、しっかりと維持していきたい面がある。教育的な意義と施設管理上の意義の2点の考え方で、学校を集約していかないといけないということなる。</p> <p>今回、光明小だけが単学級になったと言っているが、末成小も決して他人ごとではなく、東洋町の住宅開発等で増えた人口は、移り住んできた子どもが卒業すれば後は増えない傾向から、少し右肩上がりになっているものも、6年から10年もすれば、また子どもの人口が減ってくる。中長期的に見ると末成小も、やはり小規模化する学校だということになってくるので、早く手立てを講じていかなければならない。</p> <p>光明小は元から大きな規模を想定しておらず、教室があまりない。十分な規模のある末成小での受け入れを検討していかなければならないと考えている。</p> <p>中山台地区で、旧中山五月台小と旧中山桜台小が統合した時には、中山桜台小学校校舎を使うとしたが、これは2校を廃校して、新しい学校を創設した。校舎は古いのだが、学校の名前を変えて、新設校という扱いで取り組んだ。そのように2校を廃校して、1校の新しい学校をつくるという考え方もあるので、皆さん方と検討していければと思う。非常に校区が狭いところなので、この中で何とかうまく統合してやっていきたい。</p> <p>後、学校の中にいろんな複合的な組織、まちづくり協議会とかが入って教室を使っているが、その辺は幼稚園の空き教室等を使いながら教室数を確保し、子どもたちに十分に教育が展開できるよう配慮していきたい。そのためには多少工事が必要になってくるので、2年から3年ほどかかり、令和10年から11年ぐらいの統合というのを1つの目途にしていきたい。</p> <p>この統合の時期も、ある程度ははっきりと申し上げておかないと、次に入ってくる1年生がどちらの学校に入学するのかわからない等あるので、できる限りその時期も、早く皆さん方にお示ししていきたい。</p> <p>皆さん方の意見を聞きながら進めていきたいというのが、今回の説明会の趣旨である。4月以降も、随時、進捗についてご説明をし、ご意見を伺いながら取り組んでいきたい。</p> <p>説明を伺い、大まかには、今後のことを考えるとやはりメリットの方が大きいように聞こえるが、だからと言って、皆さんがすぐ「はい、賛成です」とは言いにくいような大きな問題だとも思う。今後、いろんな団体と協議をされながらとお聞きしたので、ぜひ丁寧なやりとりを住民としてはお願いしたい。</p> <p>今後いろんな団体と協議をする中で、この統合に係る懸念（反対意見とまでは言わないまでも、心配事としてどのようなことが上がると想定されているか）及びその対策について現段階でのお答えいただける範囲で構わないので伺いたい。</p> <p>心配事の想定としては、当事者である子どもたちが今までにない経験をするることにな</p>
参加者	
事務局	

	<p>るから、そういう意味では、不安というものが大きくウエイトを占めてくると思う。そのためには目標年度を定め、そこへ向けて、学校同士がしっかりと交流事業をすとか、子どもだけでなく保護者もお互いの学校を行き来する。学校全体ではなかなか難しくても、学年毎などでそうした関係性を作っていくような取組等をしていきたい。</p> <p>そうしたことに對しても不安に思う子どももいると思うので、それぞれの学校の先生と子どもとの関係性や市が配置する心理士等を通して、しっかり聞き取っていききたい。統合までと統合後、この2つの側面から対応が必要ではないかなと思っている。子どもたちの心情に十分に配慮していく。</p> <p>2点目、それと同じぐらい大切なのが、保護者である。保護者にも初めての経験であるので、子どもたちと同じように、保護者の不安の解消のために、子どもたちに対して、きちんと対応していくことの説明と、それぞれの保護者の不安の聞き取りが必要であると思っている。</p> <p>3点目は、配慮が必要な子には、少し丁寧に對してあげないといけない。これは一般的な対応ではなく、その子に合った対応が必要であると思う。例えば、統合の年度が決まり、光明小に1年生で入学、2年生から統合というような場合は、もう1年生から統合先の学校に登校できるようにすとか。そうしたことも含めたそれぞれの子どもに應じた対応が必要になるかと思う。</p> <p>そのように、子どもと保護者への支援が大切であると考えている。後は施設をきれいにするところはきれいにし、新たな学校として希望に満ちたものにしたい。</p>
参加者	<p>もし、統合される場合は、子どもの準備も親の準備もあるので、早く知らせていただきたい。</p> <p>育成会について、統合することで入りやすくなればいいなと期待する。光明小の跡地はどのように使われるのか伺いたい。</p>
事務局	<p>統合の時期は早くお伝えしたいし、事情があつて少し早めに対応したいというご家庭については柔軟に対応していくべきだと考えている。</p> <p>育成会については、確かにそれほど大きな規模でない学校にもかかわらず、入りにくい現状がある。就学前の話となるが、全国的には保育所のウエイトの方がはるかに高く、60%から80%ぐらいで、残りの40%以下が幼稚園に就園するが、宝塚は全く逆で70%から80%ぐらいが幼稚園で、20%ぐらいが保育所だった。しかし、急激にその就学前の割合が変わってきて、公立幼稚園が非常に減ってきている。一番多かったときで1,400人ぐらいだったが、今200人ちょっとである。お仕事されるご家庭が宝塚市内にも多くなってきた。就学前の待機児童問題に非常に力を入れて取り組んだことにより、就学前の待機児童というのは基本的になくなってきたが、次が小学校で、この育成会の待機児童問題が今宝塚の大きな課題である。ちなみに日本で2番目に待機児童が多いこともあり、今、教育委員会管轄ではないが、子ども未来部という担当部門がどんどん育成会を増やそうとしている。こうした統合の機会に、教室を整備して育成会の受け入れ枠も増やし、この地域の利便性を上げていきたい。統合を機に、働く保護者のニーズにも応えていきたい。</p> <p>光明小の跡地については、公共施設を維持することが大変なので、基本的には解体していきたいと思うが、光明小は非常に便利のいい場所にあるので、利活用の形を</p>

	<p>考えていきたい。</p> <p>隣の良元小が非常に古くなってきており、建替えの目処が60年と言われている中で64年が経過している。おそらく末成小と光明小が統合するところには、70年近くになるので、建替え時には良元小の子どもを一時的に元光明小に移して、良元小を建て替えるというの、1つの方法として考えられるのかなと思う。その場合も2~3年ぐらいしか使わないと思うので、その後は、いい場所なので一部を処分して一部を公共施設とか、いろんなことが検討されるかなと思う。それについては担当部署が変わってくるが、皆さん方から聞いたご意見はしっかりと伝えていく。跡地活用についても地域の方々に情報提供しながら進んでいけたらと思う。</p>
参加者	<p>育成会が4年生から入れず、夏休みに光明小の臨時育成会に入れて助かったが、光明小がなくなってしまったらそれはどうなるのか。</p>
事務局	<p>2年前に始めて、1年目が80人ほど、2年目が154人、今夏は二百数十人を受け入れる予定であり、今後拡充していく予定である。場所がなかったり、待機児童の多い地域で行っている。この地域で待機児童が多ければ臨時的ではあるが継続してやっていくのでご安心いただきたい。</p>
参加者	<p>未就学のご家庭は、今回の話を全然知らない。今後、未就学のご家庭への説明も実施されるのか。統合については、今後いろいろな課題が出てくると思うので、慎重に進めていただきたい。その上で、今後、中学校も統合とかされるのか気になる。西宮市や大阪の方で小中一貫校ができていて聞いているので、そのあたりはどうなのか。</p>
事務局	<p>まず就学前のご家庭について。今回は在学生保護者を対象としたが、今後は未就学児保護者も対象として開催していき、かつオンラインで視聴できるように対応していきたい。また、時間帯がどうしても難しいご家庭もあるかと思うので、夜の時間帯がいいのかとか、小さなお子さんがいても家で視聴できるようにとか、工夫しながらより多くの方々にしっかり説明ができる機会を確保していきたい。</p> <p>小中一貫校というお話があった。宝塚市もそれを考えており、できれば統合していったところから、ある程度の地域単位で小中一貫ができればと思っている。この辺りであれば高司小・中学校や統合後の小学校で、まずは6年、あるいは5・6年が中学に行くとか。将来的には、1つの学校の中で9年間の小中一貫校ができればいいなと思っている。</p> <p>今の学校教育制度ができたのは昭和22年で、6・3・3・4制ができた。小学校は明治期からあるので、創立150年とか160年とかがあるが、中学校は昭和22年からなのでせいぜい60~70年である。</p> <p>そこから、大きく変わって、どんどん低年齢化してきており、当時の中学1年生の体格や思考レベルは、今の5・6年生くらいである。だから、今の5・6年は、中学校で教科単位での学習の方が適しているのでは、とも言われている。</p> <p>ただ根本的にその仕組みを変えるのがなかなか難しいので、平成28年に義務教育学校という制度ができた。今の6・3制を見直す方向である。宝塚市も、校区再編後には、そういった小中一貫への取組を進めていけたらと思う。</p>

参加者	<p>懸念されることについて。今後PTAが無くなっていく段階に少しずつなっていると思うが、愛護部の活動は続くと思う。2,3年後の愛護が光明小校区まで広がって大変そうなので気になる。</p>
事務局	<p>原則、登下校というのは保護者の責任であるので、そういうことから保護者の方々が愛護部を作っていたり集団登校していただいたりとなっている。</p> <p>ただ保護者の負担軽減を考えれば今後の大きな課題であると思う。お仕事をされている方にはなかなか難しい。これはこの学校だけではなく全市的に、或いは県、国レベルでも考えてもらわないといけないことだと思う。市教育委員会としても検討し、あわせて県であるとか国の方にも要望していきたい。</p>
事務局	<p>本日は貴重なご意見、ご質問を感謝する。</p> <p>いただいたご意見は教育委員会としてしっかり受けとめ、今後の検討の参考にさせていただきます。なお、本日の説明内容やご意見については、今後の検討状況とあわせて、保護者の皆様にもお知らせしていく。</p> <p>今後も、保護者や地域の皆様と意見交換をしながら、子どもたちにとってよりよい教育環境について検討を進めていくので、引き続きご理解とご協力をお願いする。</p> <p>本日はお忙しい中ありがとうございました。</p>